

2002年度第5回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2002年(平成14年)11月6日(水) 15:30～16:15

場所：L-921

出席者：計 84名

欠席者：計 24名

配布資料(事前配布)：

- 1 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 公共政策研究所(仮称)の設立
- 2 2002年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

配布資料(当日配布)：

- 1 事前配布資料(最終報告)の差し替え
- 2 [資料1]長期計画企画拡大会議 委員名簿(2002年10月1日現在)
- 3 [資料2]専門部会各検討専門委員会 委員名簿(2002年10月1日現在)
- 4 [資料3]企画書(最終報告/新ホフマン計画[案])について 意見書

会議資料(プロジェクタ投影)：

- 1 専門部会各検討専門委員会の企画書案(中間報告)

議 事

1. 委員の変更について

高祖理事長より、資料1および資料2に基づいて、長期計画企画拡大会議および専門部会各検討専門委員会の委員変更について説明があった。

- 2002年(平成14年)10月1日付で、各学部選出の大学評議会議員の一部が改選された。大学評議会議員は長期計画企画拡大会議の構成員となっているので、その方々に新たに本会議に参加していただいた。
- 専門部会各検討専門委員会の委員についても、大学評議会議員の改選によって、若干の変更があった。

2. 専門部会各検討専門委員会の進捗について

専門部会各検討専門委員会における検討事項のうち、理念や具体的なポイント等をまとめることができた計画について、企画書案(中間報告)として発表した。

なお、それぞれの報告の後に質疑応答の時間を設けるが、この場でなくてもいつでも意見、要望、提案は受け付けているので、中間報告に対する意見等を事務局まで寄せられたい。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会 (報告：委員長・笠島学术交流担当副学長)

(a)「大学院再編案」

スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。また、以下の点について補足があった。

- この再編案は流動的なものであり、本日の段階で、委員会で話し合われている内容を発表したものであって、今後の検討によって内容が変更されることを、あらかじめご了解願いたい。
- 「改組・改編は行わない」となっている研究科の中には、内部での検討が進みつつある研究科もある。

(2)財政計画等検討専門委員会 (報告: 委員長・Mohr財務担当理事)

(a)「PR活動の強化と寄付・募金等の継続的強化」

スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

また、理事長から、発表内容に関連して、以下の指摘があった。

- 大学への寄付に関わる税制は、国立大学への寄付と私立大学への寄付では対応が異なるのが現状である。私立大学関係者も税制改正を要望しているところである。

(b)「事業会社の設立」

スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

発表後に、委員から以下の意見が出された。

- 事業会社設立はすばらしい案である。ただし、収支バランスを気にするのではなく、積極的に利益を出す運営をすべきである。
- 利害の絡まないIOB・OGも協力可能であり、積極的に運営に参画できると思われる。
- 地の利を十分に生かした運営も重要である。

(c)「第2麹町ビル(仮称)「賃貸用テナントビル」の建築について」

スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明した。

- 第2麹町ビルの建築は、一つの提案としての位置付けで発表するものである。
- 新2号館(仮称)建設中に検討し、その後6号館を取り壊して、その跡地に建築することを想定している。

(質疑応答)

Q. オフィスビルの供給過剰という問題に直面すると思われるので、どのようなビルとするのか、どのようなテナントを入れるのかなど、ターゲットを明らかにすべきである。また、公開学習センターをもっと充実させるべきであるが、その用途に使うことも可能であり、検討すべきではないか。

A. まだ検討中の段階であり、出された意見を参考にして、さらに内容を詰めていきたいと考えている。

3. 新ホフマン計画(案)の審議について

専門部会各検討専門委員会における様々な企画案の検討を踏まえて、最終企画案(最終報告)を「新ホフマン計画(案)」として審議することとした。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

(a)「公共政策研究所(仮称)の設立」

- 笠島・学术交流担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会委員長)から最終報告書に関する説明があり、その後、学事部学務課・渡邊課員(アカデミック・プラン等検討専門第2委員会事務担当)から、最終報告書の朗読があった。

(質疑応答)

Q. 〈要望〉この研究所の設立を強く要望する。ただし、非常にヴァーチャルな組織であり、財政的な裏付けや施設設備、建物などについて、基盤が脆弱であることは否めない。また、グローバル・スタディーズ研究科(仮称)構想との関連も考える必要がある。詳細については、今後の検討に委ねたい。

Q. 外部研究員の参画が謳われているが、企業など大学以外の研究者も想定しているのか。

A. 原則的には、大学以外の研究者の参加も想定している。

最終報告の審議のあと、議長から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2002年11月15日(金)までに事務局(長期計画企画室)まで提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

4. 次回会議について

2002年12月4日(水)を次回会議に予定していたが、同時刻に新2号館(仮称)の起工式を執り行うこととしたため、12月の本会議は休会とする。

その代わりに、本会議の委員には、新2号館(仮称)起工式への出席をお願いしたい。また、起工式終了後に、祝賀会を開催する。

次の長期計画企画拡大会議は、2003年1月29日(水)にL-911で行うこととする。なお、当日は大学評議会も開催されるため、本会議の開催時刻は、別途あらためてお知らせする。

以上